

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：京都府京都市

概要：

当団体は、コーポラティブハウス（全8戸）の1階に、高齢者や子供、障害者など、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティスペース（まちの縁側「とねりこの家」）を開設し、その運営を行うことを目的に、コーポラティブハウスの居住者、福祉関係者、保健医療関係者、建築関係者などが集まり設立されました。コーポラティブハウスは5月に竣工。助成対象活動では、まちの縁側交流活動や相談活動、食生活改善活動、文化活動などを実施。まちの縁側交流活動は、月曜から土曜まで開家し、ボランティアスタッフが当番制で家の主になって立ち寄る人を迎えます。定期的な昼食会のほか、編物や寄せ句など、ボランティアの発意でいろいろな企画が行われており、高齢者から子供まで、あらゆる年代の人たちが立ち寄っています。相談活動は、子育て相談（小児科医や看護師が担当）や健康介護相談（看護師が担当）、住宅相談（建築士や建築施工者が担当）などを実施し、専門家の協力を得て、地域の人たちの生活をサポートしています。

〔とねりこの家〕

- ・ 代表者：水無瀬 文子
- ・ 連絡担当者：川本 真澄
- ・ 連絡先：〒602-0926 京都府京都市上京区一条通り新町西入る
元真如堂町 370
- ・ TEL：075-431-7600
- ・ FAX：075-431-7600
- ・ E-mail：
- ・ ホームページ：

1 団体の目的と経緯

目的：

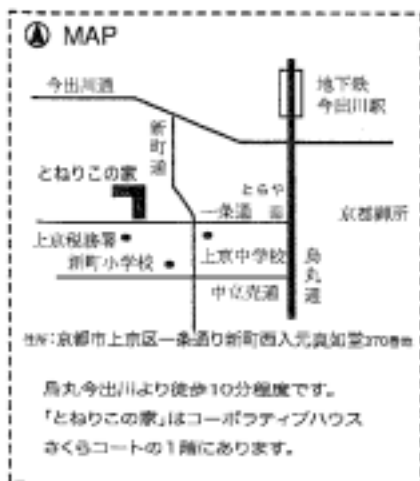
コーポラティブハウス内にあるコミュニティスペース（とねりこの家）の建設・運営

経緯：

まちの縁側のような交流サロンを築きたいと願っていた地域の元保健師がコーポラティブハウスの建設組合員等と共に、サロン（とねりこの家）の実現と施設の活用・運営のために組織を立ち上げた。

開設者である水無瀬文子は「とねりこの家」のパンフレットの冒頭で「昔、私が幼い頃、縁側に近所の人や通りがかりの人が座ってお茶を飲みながら世間話をしたり、体の具合を話していました。そんな風景が60才近くで退職した私にはとても懐かしく思われます。一人で暮らしていらっしゃるお年寄りの方や退職して家にいらっしゃる方が気軽に立ち寄ってお茶を飲み、憩い、交流できる場、近所の子どもたちが遊んで過ごせる場、育児で困っている母親が先輩母さんにアドバイスを受けてほっとする場、人が憩い交流しあい、ほっとできる場、そんなまちの縁側ができればいいなと夢み、夢を皆様とともに実現させていきたいのです。」と語っています。「とねりこの家」の設立の目的はこの言葉に集約されています。

同じ頃、子育てや老後を助け合って暮らすことや、地域の中で住むことを大切にしたいと考えてきたコーポラティブハウスを計画しているグループと出会い、共感があったのが「とねりこの家」の具体化に向けた第一歩になりました。早速、コーポラティブハウスの居住者や福祉関係者、保健医療関係者、建築関係者、研究者などが集まり、2003年5月につくる会が結成されました。



「とねりこの家」周辺マップ

つくる会でのたび重なる検討を経て、「社会的弱者がまちのまん中で、まちの主人公となって暮らせるような、また一人一人が地域に根ざしていきいきと暮らし続けることのできるような地域づくりをめざす」ことを目的とした福祉交流サロンとして設立することを決め、以下の6つの活動計画が具体化されました。

まちの縁側交流活動

相談活動

食生活改善活動

文化活動

情報交流活動

まちづくり活動

これらは後に、設立要綱書、運営規定、活動計画書などにまとめられました。ちなみに、名前の由来となったとねりこの木は、北欧では宇宙樹と呼ばれ、神々の国、人間の国、霧の国が宿り、世界の中心という意味を持っているそうです。

会での検討とともに、コーポラティブハウス（完成後「さくらコート」と命名）の建設計画も具体的に進み、9所帯の集合住宅の1戸として「とねりこの家」は一条通りに面した南向きの1階に位置することが決まりました。つくる会のメンバーも参加したプランづくりでは、活動のイメージを空間に置きかえる作業を続けました。カウンターをもった台所と広い憩いのスペース（居間）を中心に、畳コーナーや、中庭に面した奥の座敷なども設け、通りに面した大きな開口部に「とねりこの家」を象徴する縁側をつくることにしました。

建設資金カンパだけでなく、内装材や設備機器類などの寄付も数多く集まり、内装の施工はつくる会のメンバーでもある身障者の住宅改善を手がけている大工さんのグループがあたることになりました。

2004年5月末に無事竣工したものの、開設者が突然、病気のため入院加療するという不測の事態が生じました。しかし、つくる会の中心メンバーによっ



さくらコート中庭での「とねりこの家」開設記念コンサート

て運営委員会を結成し、6月13日には「とねりこの家」設立総会を開き、仮オープンしました。その後、運営委員やボランティアスタッフによる活動計画に沿った試行が重ねられ、9月26日には開設者の退院をうけて正式に開所式を行い、本格的な活動をスタートさせることができました。会員の支援を受けながら、運営委員会を主体にして活動を展開し、現在に至っています。

2 活動の内容

(1) まちの縁側交流活動

月～土曜日の午前10時から午後4時までを開家時間とし、ボランティアスタッフが当番制で家の主となり、訪れる人を迎えます。お年寄りから子どもまで誰でも気軽に立ち寄ることができます。近所に住む一人暮らしのお年寄りや、休職中の若者たち、立ち寄ってみてとねりこファンになった人たちが訪れています。元割烹の女将というお料理上手のボランティアさんが現在月曜日と金曜日に昼食会をもち、その日は大盛況です。寄せ句を楽しんだり、編み物をしたり集まった人々とボランティアさんの発意で様々な取り組みがされています。

また、子どもたちに気軽に立ち寄ってできるように、子ども企画に取り組みました。自分たちでおにぎりをつくり、御所まで葉っぱを拾いに行き、葉っぱで貼り絵をつくりました。またこの企画自体、立命館の学生さんたちがゼミの取り組みとして練り上げました。

(2) 相談活動

第1土曜日午後1:30～3:30：子育て相談

小児科医、看護師、保育士などを招いて、発達相談や手遊びなどをしています。近所のマンションに住む核家族世帯が小さな子どもを連れてきたりコーポの子どもたちもよく遊びに来ます。



まちの縁側交流風景

第3土曜日午後1:30～3:30：健康介護相談
看護師を中心に、体重、血圧測定や健康体操などを行っています。現在のところ日常来られている人たちが主に参加しています。

第4土曜日午後2:00～4:00：住宅相談

建築士、建築施工者などを招いて、住宅改修相談などを行っています。まだあまり知られていないこともあり、相談者は少ないものの、近所のお宅のトイレ改修を手がけました。

(3) 食生活改善活動

前述の昼食会のほか、手作りおやつをつくり、楽しむ活動をイベントと絡めて行っています。ある日手作りおやつづくりが大好きな単身の若い女性が、ここでお菓子を作らせてもらえますか、と訪れたのがきっかけで、ボランティアとしても関わってできるようになりました。また、無農薬の野菜が届けられたり、おみやげのお菓子が届けられたりするようになりました。

(4) 文化活動

オープニング記念コンサートとしてコーポ在住の音楽家による中世楽器演奏会を行いました。小さなさくらコートの中庭に68名が集い、珍しく美しい楽器の音色に聞き入りました。また、手作りの茶巾絞りも振る舞いました。

年末にはクリスマスコンサートをし、お年寄りから子どもまで、40人が集いました。学生さんたちのミニコンサート、手作りクリスマスカード作り、ゲームなどをみんなで楽しみました。また、3月にはお楽しみ会と題して、マジックショーとコンサートを行いました。

とねりこの常連さんで、マジックがプロ並みに上手なSさんがいます。この日に向けてKさんが特訓を受けることになりました。見事に2人は舞台を終え、その後も毎週月曜日はマジック練習日となり、Sさんの弟子が徐々に増えています。



住宅相談の様子

(5) 情報交流活動

開設当初からホームページを立ち上げ、とねりこ紹介やイベントの案内などを行っています。

ニュース「とねりこ便り」は6号まで出ました。会員約180名に郵送するほか、地域にポスティングを始めました。ニュースを見て、近所の方が花を届けてくださるなどのリアクションがありました。

とねりこの家の玄関には掲示板を設置し、とねりこの家の紹介やイベント案内をしています。パンフレットも常設していますが、日に1~2部は無くなっています。

(6) まちづくり活動

「とねりこの家」独自の企画を取り組むことはできませんでしたが、とねりこの家を訪れた人に、コーポラティブハウスの紹介などもまじえながら地域コミュニティについて感じたり語り合ったりする機会をたくさんもてました。また、「建築とまちづくり展」というイベントに会場として提供し、「まちの縁側事情」スライド会や、「育ち合う住環境」講座などに、地域の人々がたくさん参加してくれました。

3 活動の成果

多様な人々の交流を通じた地域づくり

開設者がオープン時に病気になるという不測の事態が生じましたが、「とねりこの家」の会員の支援や、運営主体である運営委員会とボランティアスタッフの努力で様々な活動を展開してきました。

最も大きな柱であるまちの縁側交流活動は、平日にはほぼ毎日開所し、近所の子どもたちやお年寄りがゆったりとした時間を過ごしていただくだけでなく、青年や働き盛りの人たちも訪れ、あらゆる年齢層の人たちの共感を呼んでいることがわかりました。縦割り福祉の枠を超え、年齢や社会的立場の異なる人たちが自然に交流することから生まれる本来の地域

社会づくりにインパクトを与えることになるかもしれません。また、ボランティアスタッフの一人が始めた週2回の昼食会は、ともすればコンビニに頼りかねない近所のお年寄りに、安価な手づくりメニューを提供するとともに、食事しながら豊かな交流のひとつを過ごす貴重な活動になっています。

新聞や地域FM放送、団体の機関誌などで取り上げられたり、噂を聞いた人たちが見学に訪れるなど、「とねりこの家」の存在が徐々に知られるようになってきました。見学者の中には、自分の住んでいる地域でもこのような活動がしたいという希望を語る人もいて、まちの縁側の活動が広がる展望も見えてきています。

相談活動には医療、介護、保育、建築などの専門家が相談員として参加し、月3回の相談会を開いています。単なる個人的な相談だけではなく、健康・介護・住まいなど、暮らしの様々な分野の現実や課題などを語りあいながら学べるような企画も必要ではないかと話し合っています。

身近で活動している音楽家による生の演奏や、同じ町内に住むおじいちゃんマジシャンのマジックを楽しんだり、懐かしい映画を見る会などの文化的な活動も好評です。身近にいる様々な才能の持ち主を発掘し、みんなでそれを楽しむ場をつくることで、地域に根ざした文化がもっと広がる可能性を示しているように感じます。

安心して住み続けられる地域づくりは、人と人のつながりが基本です。まちの縁側「とねりこの家」の活動は、まさにそれを実感させる取り組みだと感じさせてくれます。

4 今後の取り組み

活動の6つの柱を中心に、それぞれの活動をよりきめ細かく展開していきたいと考えています。あわせて、これまでの活動から見えてきた成果や展望、問題点などをもとに、以下のようなことを今後の課題として重視していく予定です。



子育て相談の様子



クリスマス会の様子

